

## FP Topics

### = 家族の一員 ペットの終活 =

2023年8月号

#### = One's impressions =

記録的な猛暑が続いており、天候も不順でゲリラ豪雨などが多発しています。日本だけではなく世界的にも気候の変動は顕著なようです。

気圧等の変化も著しく、体調に及ぼす影響も大きいように感じます。皆様もどうぞご自愛ください。

さて、今月はいつもと少し違った内容を取り上げてみたいと思います。タイトルにもありますように、ペットの終活について特集しております。

#### = 現在のペット事情 =

現在、日本はペット大国として知られるようになりました。その理由として挙げられるのが、少子化や晩婚化。ライフ・リタイアメントプランニングにも大きく関わりがあるようです。

50代からペットを飼い始めるといった方も多ようです。各年代の飼育率を見てみると、少子高齢化や晩婚化の影響がみられ、ペット飼育の高齢化傾向が読み取れます。

年代／種類	犬	猫
全年代	21.0%	16.3%
20歳代	25.4%	20.7%
30歳代	21.5%	17.4%
40歳代	21.3%	17.5%
50歳代	23.1%	18.1%
60歳代	19.6%	14.0%

#### = 延びるペットの寿命 =

一般社団法人ペットフード協会による2022年度「全国犬猫飼育実態調査」では、推計飼育頭数は、犬が約42万6,000頭で猫が約43万2,000頭と高い水準にあります。

犬の平均寿命は14.76歳・猫の平均寿命は15.62歳で共に寿命は延びている傾向にあります。これは獣医療やペットフードの進化が背景にあるようです。人生100年時代といわれる人間と同様、ペットの長生きリスクについても考える必要があります。

#### = ペット保険の検討や見直し =

東京都の福祉保健局によると、犬にかかる年間の医療費として統計的には3万円～6万円ほどのようです。犬の寿命が15年ほどと考えると、単純計算で45万円～90万円となります。その他の予防接種等を考慮して生涯にかかる医療費は100万円ほど必要です。

ペット保険は50%や70%の支払い割合を選択することが基本となります。原則、人間同様年齢が若いときは安く設定されており、年齢が上がるにつれて保険料は上昇します。また、10歳で新規の加入は不可とされているペット保険が一般的です。

#### = 世話ができなくなったときに備える =

2013年施行の「改正動物愛護管理法」により、飼い主には「終生飼育」が義務付けられました。飼い主の病気やケガ、体力の衰えや認知機能の衰え（認知症）などにより、十分な世話ができなくなることもあります。

また、ペットの長寿化により、ペットより飼い主の方が先に逝ってしまうことも考えられるでしょう。そこで、人間だけではなく、ペットの終活も元気なうちに考えておく必要があります。



ペットの世話をすることができなくなったときに備えて、ペットのエンディングノートを作成するのも一つの方法です。

理想的には事前に次の飼い主を見つけておく、難しい場合には、里親を募集するなど事前に対策しておくことが肝要です。

無事次の飼い主が見つかった場合でも、動物は話することができないこともあり、新しい環境に馴染めないことも多いようです。

そんな事態に備え、飼い主だからこそ知っている、ペットの性格や癖・習慣などをエンディングノートに書き残しておきます。最近では、ペットに関する記述もできる、エンディングノートも市販されているようです。

### ＝ペット信託の選択＝

ペット信託とは、ペットの飼い主が、ペットの死亡や病気などで、飼育が困難になった場合。信頼できる第三者にペットを託し、そのペットの飼育費用を管理する契約のことです。

具体的には、次の飼い主にそのペットにかかる生涯飼育費用を残す仕組みをいいます。

信託契約を締結する場合、次の3者を設定する必要があります。

- ・委託者：ペットの飼い主
- ・受託者：信託財産（金銭）を管理する者
- ・受益者：実際にペットを飼育する者（ペット用の施設も含まれる）

ペットの飼い主（委託者）が受託者や受益者を選任します。受託者や受益者は信頼のおける個人や法人である必要がありますので、慎重に選択します。

また、信託契約時に飼い主（委託者）が認知症等で判断能力がないと認められた場合には、契約自体が無効になる可能性がありますので、判断能力があるうちに信託契約を締結する必要があります。

ペット信託には次の費用がかかります。

- ・信託契約書作成料（司法書士等）等の初期費用 ⇒15万円程度～
- ・飼育費用⇒年間25万円程度 × ペットの余命

大峯奥駈道走破を断念し、山を降りることにしました。天候は秋晴れ。絶好の登山日和です。渡る風も涼しく少し寒いくらい。昨夜は営業小屋の暖かい布団で休ませてもらったおかげで身体も楽です。軽やかに歩き出しました。

目指すは天川河合のバス停。天川河合は天川村に所在する集落、街道沿いには旅館も数件あり、少し足を延ばすと、天河大辨財天社や洞川温泉などの観光スポットもあります。

天河大辨財天社は音楽や芸能の神様としても有名で、神前で能の奉納が毎年行われているそうです。神仏習合の形態を今も残しており、大峯修行の要の行場とされています。

洞川温泉は大峯信仰の登山基地として栄えてきました。役行者が従えた「後鬼」の子孫の里とも伝えられており、古の風情を残した雰囲気のある温泉街です。沢登りの帰途、日帰り入浴に訪れたことはあるのですが、ゆっくり宿泊してみたい温泉です。

弥山小屋から天川河合の集落まで、標準的なコースタイムでは5時間～6時間ほどです。約1,700mほどの高低差、身体も軽く、背負っているザックも軽く感じていて、数日の山歩きのおかげで足もこなれています。飛ぶように駆け下りますが、誰一人として遭遇しないのです。

こんなに山深く神秘的な山域なのに、もったいないな～なんて改めて感じます。頻繁に出会うのは蛇やカエルさん、大峯の山中にはカエルがたくさんいるのです。歩きながら、次の山は明るい開放的な雰囲気の良い山も良いな～なんて・・・（北アルプス燕岳）

